



森松社員の防災対策

(いざという時に! 対策は大丈夫ですか?)

今世紀前半に発生する可能性が高いといわれている東南海・南海地震。

皆さんはどのような防災対策を立てていますか?

森松社員の各家庭で立てている防災対策を紹介します。



- ☆家具類の倒れ防止器具を設置(固定)
- ☆ラジオ付き懐中電灯や、保存食、水の置き場所を決めて常備している。
- ☆ガラスに飛散防止シートを貼る。
- ☆災害時の家族集合場所を決める。

このような対策をされている方が多くいました。

また、食器棚の上の方には、軽いもの(割れないもの)を入れるといった意見、耐震工事として部屋の中に鉄骨を組むといった意見や、地震が起きても食器戸棚の扉が開かないように、取っ手部分に、ひし形に変形させた針金ハンガーを設置したといった意見もありました。

「備えあれば憂いなし」と言うように日頃の準備が肝心です。4面には住まいの備えを具体的なイラストで載せましたので、ご家庭での防災対策の参考にして下さい。

☆アンケートにご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。☆
編集委員一同

『人材について考える』

社長 森 直樹



結局、人です。移動手段や情報通信が発達して、間接的に相手との距離が短くなり、意思伝達のスピードが速くなりました。携帯電話、テレビ電話、電子メール等、一般的に使われるようになったのはここ10年ほどのことです。これらビジネスに大きな変化をもたらした技術は、ITビジネスとそれに関連するサービス業を生み出し、新たな市場を形成しました。

しかし、その情報通信技術自体は仕事をしません。価格を決めるのも、製品を販売するのも、配送するのも人の仕事です。またデザインや設計も作業の道具がペンからコンピュータに変わったに過ぎません。一部の企業では、これらの作業も機械により自動化されているようですが、自動化、というアイデアも人がいてこそ発生するものです。

つまり、人が会社が最高の資源であり、育成すべきものであり、また、一人一人が会社を構成する、会社そのものであると私は考えます。そこでこの最高の資源である人材(材)をどう発掘、育成するかが会社を永続的に発展させる上で最優先されるべき事ではないでしょうか。

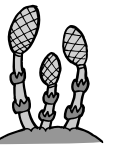
人が人を育て、人が会社を成長させる。そしてより良い人材が集まり、また育成される環境が作られる。この好循環を生み出せるかどうかは、その会社自身の魅力です。好立地や好待遇という表面的なことだけではなく、その会社自身の持つ人材、文化や伝統が生み出す、その会社の雰囲気(材)が魅力として発せられ、どれだけ多くの人が「森松で働いてみようか」と興味を持たれる会社になれるかどうかとします。

naoki@morimatsu.net

2005年 3月

の予定

30日(水)	24日(木)		23日(水)	21日(月)	20日(日)	18日(金)	14日(月)	12日(土)	6日(日)	6日(日)	~	1日(火)
久保田裕子さん誕生日	編集会議 18時~18時30分	営業会議 15時10分~16時10分	経営会議 13時30分~14時30分 生産会議 12時~13時	春分の日振り替え休日	森直樹さん誕生日	長崎ひとみさん誕生日	誕生会 12時~	松井宣和さん誕生日	成瀬勝英さん誕生日	坂井田時子さん誕生日	華東輸出入商品展示会	



これぞお手本!

家具転倒防止ポール
つっぱりパワで家具を支えます。

ガラス飛散防止シート
ガラスの破片によるケガを防ぎましょう。

L型金具
片方を家具の後方面サイドに、もう片方を鴨居などに取り付けます。

家具転倒防止金具
チェーンやベルトで転倒を防止。たるみなく張りましょう。

揺れによる落下を防ぐため、ヒモなどで固定します。

止め金具
開き戸式は中から飛び出さないようにします。

消火器・消炎剤
簡単に取り出せる場所に置きましょう。

家具転倒防止板
家具の転倒や引出しの滑り出しを防止します。

平型金具
二段重ね家具はつなぎ目を補強固定します。

本棚などは中身が落ちないように、ベルト状のもので固定します。

『ウォーキング』

小坂美香 (7UP)



昨年から、テレビや雑誌でウォーキングに関する番組や記事などをよく見かけました。歩き方にもいろいろあります。テレビを見ていると簡単そうに見えたのですが、実際にやってみると結構難しいんだなと思いました。私の場合、がに股に歩いているのか、靴の裏を見ると踵の外側だけがいつも磨り減っています。今は意識して歩くようにしていますが、気が付くといつも歩き方に戻っています。せっかく会社から駅まで歩いているのだから、その時間を使って、正しい歩き方でがに股を直したいと思っています。



『グリーンプラスチックとカーボン・ニュートラル』

森 信之



これからは「グリーンプラの時代」になると言われて4~5年経ちます。わたしも中小企業の仲間とグリーンプラ研究会を設立して、商品開発を進めている最中です。「グリーンプラ」とは植物資源(トウモロコシ・さとうきび・ジャガイモ・砂糖・でん粉など)から作ったプラスチック原料で加工した製品を総称して呼びます。

従来プラスチックは石油・天然ガス・石炭(化石燃料)を原料にして作っていましたが、1997年京都会議で地球温暖化の原因のひとつに炭酸ガスが地上に増加しすぎている事が発表され、その後、限りある石油資源を大切に使うことが決められました。植物をプラスチックの原料にすれば、その分だけ石油が節約できますし、トウモロコシもジャガイモも生育過程で炭酸ガスを吸収しながら実を大きくし、採取して、プラスチック原料製品と成る、役目を果たして廃棄されたり、ゴミと一緒に焼却処理されても、排出される炭酸ガスの量は、自らが取り込んだ炭酸ガスの量以上は煙突から出ない(カーボンニュートラルと言います)。

南極や氷河の水が溶け出した、海面が上昇して島が海面下になると言う話は、このような事が背景にあるのです。トヨタ自動車はオーストラリア・インドネシアでグリーンプラの研究を進め、将来は(2020年頃)プラスチック原料メーカーとして三井化学・出光・三菱化学より巨大な事業部門を配下に持つことになる、(今年の正月の中日新聞記事より)。

一方で、アメリカは食料・穀物を戦略物資として世界支配に乗り出しているのが、要注意。中国の2004年食料需給バランスは需要4億9000万トンに対して、供給が4億5500万トンで、差し引き3,500万トン不足します。かつて中国は3,000万トン前後の穀物を輸出していたが、しかし、年間2000万人近い人口の増加と、生活が豊かになり肉の消費が増大する、牛肉1キロ生産に6キロの穀物飼料、豚肉1キロに4キロの穀物飼料を必要とする、これが中国の食料不足・世界の食料不足に拍車をかける。

2025年ごろは食料戦争、水戦争の時代になると専門家たちは発言している、もう石油獲得戦争は終わった。そんな大切な穀物をプラスチックの原料に使って良いのかな? チョット心配です。

『あせらる』

森 ちか



これからは同じ仕事をするにも「やり方」と同時に「あり方」が問われる時代です。「ありがどう、ごいしました」という言葉つてもそれを言う人の心がどうあるかで、相手への伝わり方も全く違ってきますし、上司と部下の人間関係においてもやはり一番大事なのは、「心のあり方」だと思えます。

決断を迫られた時、決断を下すまでのプロセスや技法でなく、「何かあった時には責任を取ってやる」という命がけの姿勢です。つまり大事なのは「やり方」ではなく「あり方」なのです。又、日本が貧しかった頃は、生活のために職を求めていました。しかし、多くの人は気楽なフリーターに甘んじることなく、日夜真面目に働いています。どうして責任と拘束のある仕事につくのでしょうか? それは仕事を通じて自己実現を果たしたい。又、仕事を通じて社会の中で自分の役割を果たしたいという高次元な欲求が存在するからでしょう。

仕事に取り組む上での「心のあり方」が、変わってきていて「どうこなすか」という、やりかたの域から、今後は「何のためにやるのか」という「あり方」の域へ仕事に求められる姿勢も変わってきています。

『フリーター』

吉岡孝記(ロジテイクス2005)



先日フリーターの特集番組をテレビで見ました。国内の工場に働いているフリーターが100万人もいることにビックリしました。人材派遣会社と期間限定で契約し従業員とは違い必要な時だけ使うことが出来た社会保障やボーナスなど払う必要がないため企業としては非常に使いやすいし、働く側からすると人材派遣会社に登録する事で仕事を斡旋してもらえ、為どちらにとってもいいシステムだと感じました。

私のイメージするフリーターといえは定職も持たず親のすねをかじり遊ぶ金欲しさにアルバイトをすると言う風に思いがちでしたが、この番組の中で紹介された人たちはいろいろな理由でフリーターをやっている自分のやりたい仕事につくまでアルバイトをしながら勉強している人や、商売がうまくいかず仕方なくアルバイトをする人、やりたい仕事が見つからずやりたい仕事が見つかるまでアルバイトで食いつなぐ人等さまざまでした。

なかなか自分に合った仕事に付ける人は少ないと思います。私も学生時代色々なアルバイトをしましたが楽しい仕事もあれば嫌な仕事もたくさんありました。ただ、今考えると色んな人と出会い、色々な経験をさせてもらった気がします。嫌な仕事でもサボる事や辞める事はばかり考えていたので嫌な仕事をいかに早く終わらすか良く知恵を絞った物です。うまくいったときは嬉しい物でした。今考えるとこれも小さな改善だったかも知れませんね。何もしらないと素人だったから逆によかったのかも知れません。楽しんでませんか?

冬季休暇読書感想文

「残業しない技術」 梅森浩一 著

小坂美香 (7UP)

この本には、いかに残業をせずに仕事をするかと言う内容が書かれていました。その中で「料理」と「仕事」の関係というのがありました。手際よく、素早く料理を作る為には「段取り」が良くなければ出来ない事から、その段取りが仕事をしていくうえでも言える、料理との共通点だという事でした。自分の頭の中で、事前にシミュレーションが出来ればきっとスムーズに行くのだろうなと思いました。

そしてこの本には、たまってしまった書類を捨てる方法という項目がありました。ある期間が過ぎても、なんの不都合も起きなかったら、次の4項目の内容を確認して捨ててしまおうと言うものでした。

- 「～までに～するように」といった上司からの明確な指示があるかどうか?
- 後々、自分の仕事の資料として使える書類かどうか?
- 同じ書類を保管している人が他にいないかどうか?
- 誰も持っていない場合、それを誰かにバトンタッチできるかどうか? 私もなかなか捨てる事ができないので、これを参考にして書類の管理をしようと思いました。

「頭がいい人、悪い人の話し方」 樋口裕一 著

村田恒夫 (直列六気筒)

何気ない会話に、その人の知性が現れる。難しい議論をしたわけではない。他愛のない世間話をしただけなのに....。社会に出れば話し方ひとつで、仕事ができるかどうか判断されてしまう。

この本は、愚かな話し方サンプル(40例)が紹介され、各々周囲の人の対策・自覚するためのワンポイントで構成されている。

この本(愚かな話し方サンプル)を読んで、私自身の話し方を考えた場合、自分がいいことを明確にしないまま話してしまふこと等、今後、気をつけて話さなければいけないと感じました。相手に伝えたいメッセージがあれば、それを曖昧にせずに、自分の中ではっきりさせて先に言う。

その他、おもしろい本を読んだり、新聞等も詳細に読む等興味を広げていくことにより、幅のある話し方が出来るように努力していきたいと感じました。

『愛犬「プリン」は3人目の子供?』

長崎 修 (7UP)



我が家では今犬を飼っているのですが、それは私が昨年の慰安旅行から帰ってきたとき、何故か家にいたのである。犯人は奥さん。私が居ない間に買ったのである。パピオンで名前は「プリン」といいます。その愛犬がちょうど最近おかしな行動を取るようになってしまいました。それは、突然凄惨な唸り声と共に尻尾を噛み付くのだ。初めは虫が原因と思いきや獣医さんに連れて行き薬を飲ませたが、一向に良くならない。そして1ヶ月が経つ頃には病名が判明「強迫神経症」それは神経質な犬におこる事がある病気で、要は尻尾を噛み付くことで飼い主の気を引こうとしているのだそうだ。そういえば最近忙しさからあまり散歩に連れて行かなくなった。奥さんも昨年5月、仕事で右足を骨折したが無理して仕事をし続けた事が原因か、左足の踵の骨に棘みいたものが出来てしまい足が痛くなる歩くことが困難な状態になってしまっている。散歩とこころでなくなくなってしまっている。まあそれは人間の事情であって愛犬にしてみれば関係ないことであるのだが、その病気を治すべく毎日朝晩に薬を飲ませているのだがこれが「苦勞である。妙に勘がいいのでお肉の中から薬だけを吐き出してしまふ。私ならまだ奥さんより警戒してないだろうとあげてみる。結果は同じ。今、子供二人もウイルスインフルエンザではないによる感染で薬を飲ませているのだが子供に薬を飲ませるのも大変なのにこれではまるで子供が3人いるみたいだ、と奥さんに話したところ奥さんから「あなたをいれると4人だね」と返事が返ってきた。だけど私は健康だから薬は飲んでないもん、と言いたいところが手が掛かるのは事実だからやはり奥さんかすれば子供と同じなのかな。

あー誰か上手に薬を飲ませるよい方法があったら教えてください。